

循環経済及び資源効率性原則に関する G7- B7 ワークショップ コンセプトノート

1. 日程：11月6日（月）20時00分～22時40分、7日（火）20時00分～22時30分
2. 会議形式：オンライン
（会議はチャタムハウス・ルールに基づき開催）
3. 共同主催者：
G7 議長国（環境省）、B7 議長国（経団連）、イタリア（24年 G7 議長国）
4. 参加者：G7 加盟国、B7 加盟機関、J4CE メンバー等
5. 招待機関：WBCSD（持続可能な開発のための経済人会議）、OECD（経済協力開発機構）、IRP
6. オブザーバー：欧州循環経済ステークホルダープラットフォーム、循環経済パートナーシップ（J4CE）
7. 言語：英語（J4CE 参加者への英日通訳有）
8. 背景

持続可能な消費と生産を達成するための資源効率と循環経済によるアプローチの重要性および、資源・気候変動・生物多様性・汚染の関連性は、UNEA/UNGA 決議、G7、G20、その他のフォーラムを含め、多国間で認識され主流となっています。企業や民間部門は、バリューチェーンの持続可能性への取組を通じ、資源効率向上と循環経済への移行を実現する上で重要な役割を担っています。

こうした背景のもと、これまでの G7 におけるプロセスを踏まえ¹、2023 年 4 月 15 日～16 日、札幌にて開催された G7 気候・エネルギー・環境大臣会合で、コミュニケの付属文書として、循環経済と資源効率原則（CEREP）²が合意されました。CEREP は、企業が循環経済に関するイニシアチブを立ち上げ、行動を強化することを奨励し、政府および金融セクターとの積極的な連携や循環経済や資源効率に関する自主的な行動を促す事を目指しています³。さらに、G7 首脳は広島サミットで CEREP を支持しました⁴。

CEREP は 6 つの基本原則を有し、リーダーシップのコミットメント、循環経済および資源効率性アプローチと脱炭素化やネイチャーポジティブアプローチとの統合、循環経済・資源効率ビジネスモデルへの移行、モニタリングとレポーティングの強化、マルチステークホルダーパートナーシップ・エンゲージメントなどの側面が含まれています。

G7 サミットに先立ち、B7 は G7 に対し「B7 東京サミット共同提言⁵」を提出し、この中で G7 との

¹ G7 メンバーは、英国 G7 議長国および 2022 年のベルリン・ロードマップにおいて、CEREP を策定することに合意しました。

² <https://www.env.go.jp/content/000129586.pdf>

³ <https://www.env.go.jp/content/000127829.pdf>

⁴ https://www.env.go.jp/council/content/i_01/000136530.pdf

⁵ <https://www.keidanren.or.jp/policy/2023/028.html>

対話、優良事例の共有、循環配慮製品設計や循環資源の使用を促進する政策措置の実施、また、循環経済の実現に資するインフラへの投資などを要請しました。CEREP の活用と官民パートナーシップの育成のための B7 との関与と協力も、G7 閣僚会合のコミュニケに盛り込まれています。

このような背景のもと、経済界が循環経済・資源効率性アプローチを企業ガバナンスおよびビジネスモデルに統合するにあたり、これらの基本原則が十分に活用されるよう、日本が議長国を務める G7 並びに B7 主導で本ワークショップを共催します。また、この目的を踏まえ、本催事は、G7 から CEREP や各国の循環経済促進のための政策を発信するとともに、B7 からは優良事例を共有し、また、ビジネス環境の整備に向けた経済からの政策的要請を提示し、G7 との対話を促進します。

9. アジェンダ

(1) 1日目 (11月6日 計2時間40分)

時間(JST)	プログラム	発表者
20:00-20:12 (12分)	会議運営に関するアナウンス 開会の挨拶 ・環境省 松澤地球審 ・経団連 野田副会長・環境委員長 ・イタリア ガヴァ環境・エネルギー安全保障副大臣	G7 議長国、イタリア (24年 G7 議長国)、B7 議長国
20:12-20:20 (8分)	CEREP の紹介	G7 議長国
20:20-21:30 (70分)	循環経済政策の紹介【発表】 ・ 再生資源・循環ビジネス市場の創出・拡大に向けた投資支援や環境整備など、民間企業による循環行動の促進に資する現行の政策や取り組みを各国代表より紹介する。 EU、独、伊、米 ・ 質疑応答	G7 加盟国
休憩		
21:35-22:35 (60分)	CEREP に関連する優良事例の紹介【発表】 CEREP の原則に関連する優良事例について、1-2 社/各国経済団体から紹介する。 ・ 旭化成 ・ DOWA ・ プリジストン ・ Sims Lifecycle Services ・ ECESP ・ Circular Economy Leadership Canada	B7 団体
22:35-22:40 (5分)	まとめと 2 日目のご案内	G7 議長国
合計 2 時間 40 分		

(2) 2日目 (11月7日 計2時間30分)

時間(JST)	プログラム	発表者
20:00-20:05	アナウンスとプレゼンターの紹介	
20:05 -20:45 (40分)	<p>CEREP 実施における課題や施策【発表】 CEREP の実施に向けた課題や、これに対処するための関連 施策・対策について国際機関より説明する。 (トピックの例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 貿易 (関連: CEREP 原則 3) ✓ 二次資源市場の拡大 (関連: CEREP 原則 4) ✓ 進捗把握のための共通の CE 指標・測定 (原則 5) ✓ 分野横断的な連携 (原則 6) <p>・ 質疑応答</p>	WBCSD, OECD,IRP
20:45-22:15 (90分)	<p>循環経済推進における課題と政策ニーズの共有【パネル】</p> <p>1. B7からのインターベンション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ B7 メンバーより、環境目標と持続可能な経済成長を 達成するため、資源効率的な循環ビジネスの拡大にお ける課題や政策ニーズについて共有する。 <p>(トピック例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ これまでの発表へのレスポンス ➢ 求められる政策措置 (例: 製品設計や循環資 源利用促進等) と実施促進のためのインフラ (enabling infrastructure)への投資 ➢ 循環ビジネスを拡大するための分野横断的な連 携 ➢ CEREP 分野の今後の B7-G7 連携 <p>※B7 メンバーは、全てのトピックに回答する必要はな く、1 番の議題に対しての取組や要望や意見等を述べ る。</p> <p>休憩 (場合により G7 のインターベンションの後)</p> <p>2. B7 のインターベンションに対する G7 のインターベンション 3. ディスカッション (添付の補足説明をご参照ください)</p>	B7 (各国経済 団体) G7 加盟国 その他参加者
22:15-22:30 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・G7/B7 メンバーより一言 (時間が許せば) ・閉会の挨拶 ・今後の活動について 	参加者及び G7 議長国
合計 2 時間 30 分		

※ 終了後ワークショップのサマリー (2 ページ程度) を作成し、結果概要を後日、G7Alliance と環境省の WEB サイトに公表予定。